

特別養護老人ホームにおける多職種連携・協働研修

～高齢者が最期までその人らしい生活を継続できる支援を目指して～

【趣旨】

超高齢・多死社会を迎える本邦において、独居老人、老々介護、多重介護、介護家族の日中不在や遠方在住などの増加により家族介護力が低下している現状があります。これに対し、高齢者が住み慣れた地域で最期まで暮らすことができるための方策として地域包括ケアシステムが推進され、その鍵となる多職種連携・協働の在り方が追究されてきています。しかし、在宅療養生活の継続を支援する診療所や医療施設、24時間対応の訪問看護・介護などは十分に整備されているとはいえ、ケア施設を選択せざるを得ない現状もあります。また、介護・看護を担う人材不足への対策は喫緊の課題になっています。

特別養護老人ホーム（以下、特養）は、ケア施設の中でも【自宅でない在宅】【終の住処】と位置づけられています。このようなことから特養を拠点にした多職種連携・協働およびその教育の在り方を検討することは意味があると考えます。

そこで、本研修会では、介護職、看護職、栄養士、理学療法士、作業療法士、薬剤師、生活相談員、医師などを目指して学修をしている学生さんを対象に、各々が互いの役割を理解し、特養入居高齢者が人生の最期までその人らしい生活を全うできるよう支援するための多職種連携・協働の実際について基礎的研修を行い、その評価からより良い研修の在り方を検討するものであります。また、この研修を通じて、学生さんによる高齢者ケアの魅力を発信する機会とし、人材確保の一端になることもねらっています。

本研修会では、以下のことを学修します。

<講義>

1. 特養（特別養護老人ホーム）および研修施設（特養）の特性
2. 特養入居高齢者の特性
3. 特養入居高齢者の暮らしの継続を実現するために必要な専門職者とその役割
4. 特養における専門職者の連携・協働の現状

<演習：多職種によるグループ活動>

1. 多職種で編成したグループで、**実際に特養に入居している高齢者の方とふれあい**、以下のことを検討する。
 - 1) 入居高齢者のこれまでの健康・生活の状態と実践されてきた各専門職者の活動と連携・協働による支援の内容・方法の経過の把握
 - 2) 入居高齢者が最期までその人らしい生活を実現するために、今後必要な各専門職者による活動と連携・協働による支援の内容・方法の検討